

AEARU体験談

国際交流の バランス感覚を体得

AEARUサマーキャンプ(ジェネラル)
(平成18年8月6日～8月12日,台北)



このキャンプは短い期間でしたが、得るものが多くありました。同年代の学生スタッフが、温かいもてなしの心を持ちながらプログラムを円滑に進行する姿を見て、自分の未熟さを反省するきっかけとなりました。頻繁な英語でのディスカッションでは、意思疎通に苦勞しましたが、それを乗り越える楽しさや、国際的な人間関係における積極性と調和のバランスの大切さを実感しました。また、学生という立場を生かして、歴史認識や政治といった複雑な問題についても、積極的に自分から話題にすることができました。ここで中国や韓国、台湾など、日本と深い関係を持つ国々の学生と話をできたことは、



バランスのとれた目で歴史認識問題や外交関係を見るために大きく役立つことでしょう。さまざまな経験を共有し、意見をぶつけ合った参加者達とは心からの友情を築くことができました。以前にも同じようなイベントに参加したことがありますが、今までで一番印象に残る経験でした。

総合人間学部4年 涌井 健策

他分野の研究者との 交流が刺激に

AEARU分子生物学・
生物工学ワークショップ
(平成18年11月4日～6日,つくば)



このワークショップでは、日本・韓国・台湾で活躍する研究者が、多岐にわたる領域の発表を行いました。各分野の一流研究者の発表を聴講したことで、学術上の視野が広がりました。学生はポスター発表を行ったのですが、私はその中で口頭発表者として選ばれ、ポスターの概要説明と質疑応答を行いました。他分野の研究者からの指摘により、新たな問題点を発見することができましたし、英語で



口頭発表するのが初めてだったこともあり、とても有益な経験となりました。また、他の参加者のポスター発表を通じて、他大学の学生の研究を知ることができたのは、貴重な体験でした。このワークショップへの参加は、今後の研究を進めるにあたり、価値のあるものであったと確信しています。

大学院生命科学科修士課程1年 石田 遥介

APRU・AEARUには世界の最先端大学が加盟しています

APRU加盟大学

オーストラリア	Australian National University University of Melbourne University of Sydney
カナダ	University of British Columbia
チリ	チリ大学
中国	復旦大学 北京大学 清華大学 中国科学技術大学 浙江大学 香港科技大学
台湾	台湾大学
インドネシア	インドネシア大学
日本	京都大学 慶應義塾大学 大阪大学 東京大学 早稲田大学
韓国	ソウル大学
マレーシア	マラヤ大学
メキシコ	メキシコ国立自治大学
ニュージーランド	University of Auckland
フィリピン	University of the Philippines
ロシア	極東国立総合大学
シンガポール	National University of Singapore
タイ	チュラロンコン大学
アメリカ合衆国	California Institute of Technology Stanford University University of California, Berkeley University of California, Davis University of California, Irvine University of California, Los Angeles University of California, San Diego University of California, Santa Barbara University of Oregon University of Southern California University of Washington

AEARU加盟大学

中国	復旦大学 南京大學 北京大学 清華大学(北京) 中国科学技術大学 香港科技大学
台湾	台湾大学 国立清華大学(新竹)
韓国	韓国科学技術院 浦項工科大学 ソウル大学
日本	京都大学 大阪大学 東北大学 東京工業大学 東京大学 筑波大学

編集・発行 京都大学 国際部 国際交流課
住所:〒606-8501 京都市左京区吉田本町 電話番号:075-753-2207

APRU

Association of Pacific Rim Universities

環太平洋大学協会

AEARU

The Association of East Asian Research Universities

東アジア研究型大学協会

世界の最先端大学から学ぼう！

APRU



APRU (Association of Pacific Rim Universities: 環太平洋大学協会) は、1997年に環太平洋圏の主要大学の学長の提案により発足し、現在16か国(地域)37大学が加盟しています。

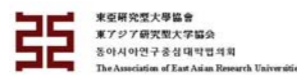
環太平洋圏の主要大学間の相互理解を深めることにより、環太平洋地域社会にとって重要な諸問題(たとえば、経済発展、都市化、技術移転、大気汚染、資源枯渇など)に対し、教育・研究の分野から協力・貢献することを目的とする世界有数の大学連合です。

APRUの目標は、環太平洋地域社会の発展にとって、効果的な貢献を果たすことにありますが、これはAPEC(アジア太平洋経済協力会議)の環太平洋諸国共同体の創設のための取り組みにも類似していると言われています。

京都大学はAPRUの創設メンバー校です。

詳細はウェブサイト参照 → <http://www.apru.org/>

AEARU



AEARU (The Association of East Asian Research Universities: 東アジア研究型大学協会) は、1996年に香港科技大学及び浦項工科大学の提唱によって結成され、現在4か国(地域)17大学が加盟しています。

地域的・文化的な類似性を有するだけでなく、学術的プロフィール、教育目標及び学術研究・開発においても共通の関心を持つ東アジア地域の主要な研究型大学を結集し、研究者及び学生の交流、共通のカリキュラムの開発と単位の互換及び施設・情報・資料の共通利用など、相互の関心に基づく協力をを行うことを目的とする有力な国際大学連合です。

京都大学は、日本のAEARU加盟大学の代表として、2006-2007年のAEARU理事会メンバーとなっています。

詳細はウェブサイト参照 → <http://www.postech.ac.kr/aearu/>

APRU・AEARUでは、年間を通じて、世界各地の加盟機関でさまざまな分野の会議やワークショップなどを開催しており、京都大学からも、毎年たくさんの教員や学生が参加しています。毎年夏に開催されるAPRU博士課程学生会議とAEARUサマーキャンプは、海外の学生と約1週間寝食を共にし、テーマに基づく討論や文化交流を行うもので、とくに人気の高いプログラムです。APRU・AEARU事業の参加者の募集は、国際交流課が窓口となり、各部署事務局へ通知しています。また、京都大学ホームページにも募集案内を随時掲載していますので、興味のある方はぜひご応募ください。



http://www.kyoto-u.ac.jp/kokuryu/international_union/INDEX.HTM

APRU主な活動

- APRU/AEARUリサーチシンポジウム
- APRU博士課程学生会議
- APRU学部学生サマープログラム
- APRU遠隔教育とインターネット会議
- APRUフェローズプログラム 他



AEARU主な活動

- APRU/AEARUリサーチシンポジウム
- AEARUサマーキャンプ(ジェネラル、トピカル)
- AEARUウェブ技術・コンピュータ科学ワークショップ
- AEARUネットワーク教育ワークショップ
- AEARU分子生物学・生物工学ワークショップ 他

世界各国に友人ができた

APRU博士課程学生会議
(平成18年7月17日～21日, シンガポール)

この会議は、博士課程の学生120名が参加し、環太平洋地域に留学するエジプト人やモルディブ人などを考慮すると、世界規模の交流の場でした。私は津波防災工学専門の学生として参加しましたが、参加者の専門分野は人文科学・社会科学・自然科学と幅広く、この会議は科学全般の学術的交流の場でもありました。そのような中、私の研究テーマは、2004年インド洋大津波の発生により津波災害に関心が集まっていることもあり、多くの参加者に関心をもっていただけただけです。この会議を機に、防災に関心のある方々と地球規模の繋がりができたことは、私にとって大きな財産となりました。帰国後も、そのような友人達と彼らの国の津波災害を話題にメールのやり取りをしています。



さらに、多様な国々の博士課程の学生とそれぞれの日常生活の様子などを話せたことの意義は大きく、私自身の普段の心配や悩みが非常に小さなことのように感じられました。この会議の参加により、視野が狭くなりしがちな研究生生活が改善することを確信しています。

大学院情報学研究科博士課程2年 奥村 与志弘

環太平洋の多様性を体感

APRU学部学生サマープログラム
(平成18年7月24日～8月4日, 上海)

熱気溢れる真夏の上海で私が出会ったのは、今まさに変わろうとする中国の姿と、その中国に熱い視線を注ぐ15か国61人の学生たちでした。復旦大学主催、「Introduction to Modern China」と称されたこのサマースクールの内容は、中国の政治経済・歴史文化に関する講義、企業訪問・上海雑技団観賞・太極拳体験と多岐に渡り、そこには国際社会においてプレゼンスを増そうと邁進する中国の姿がそのまま重なって見えるような気がしました。また教室では、参加者それぞれの環境や思いが反映されたさまざまな意見が飛び交い、時には教授側から「中国の民主化は可能と思うか」と言った質問が投げかけられるなど、現代中国を取り巻く状況の躍動を、肌で感じることができました。環太平洋という壮大なくくりの中で、中国についてそして世界について真摯に思いを巡らす仲間と寝食を共に過ごし、一夏にとどまらない関係を育めたことは、私にとって将来に続く大きな一歩となりました。ここで目にした多様な世界地図をもとに、



中国との関係を含め、国際社会において日本が今後どのような役割を果たすことができるか考察を続けたいと思います。

総合人間学部3年 竹鼻 千尋

